

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2775400266
法人名	株式会社 ライフパートナー
事業所名	グループホーム アムール忠岡
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡東2丁目-15-38 (電話) 0725-20-0818
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成19年11月29日

【情報提供票より】 (19年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算12.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1・2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575 円			

(4) 利用者の概要 (11月 29日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3	要介護2	2		
要介護3	9	要介護4	1		
要介護5	3	要支援2	0		

年齢	平均 83.3 歳	最低 63 歳	最高 97 歳
----	-----------	---------	---------

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳洲会岸和田徳洲会病院、おくだ医院、三田歯科診療所
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社ライフパートナーは大阪府内に4つの地域密着型サービス事業所を開設しており、そのうち2番目に開設されたのがこのアムール忠岡である。南海本線忠岡駅から徒歩5分のところにあり、町庁舎、コンビニエンスストア、スーパーマーケットなども近く、生活に便利な環境の中にある。「愛と自由」をコンセプトに、経営者、管理者、職員が一体となって理念の実現に向けて誠実に介護サービスの提供に努めている。職員は担当制をとり、利用者一人ひとりに寄り添いながら、利用者個々の生活スタイルを尊重した支援を行っている。入居時のアセスメントも詳細に聴取し、個別ケアに反映している。利用者と家族の意向に沿った終末期ケアに対応する体制もあり、落ち着いた雰囲気の中で安心と信頼のある生活の場になっている。また、経営者は効率的な事業運営を行うことで、職員の定着、介護サービスの質向上を図ることに意欲的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 全体会議、リーダー会議、フロアミーティングなどで検討し改善に取り組んでいる。特に利用者に対する言葉使いはユニットリーダーを中心にお互いに注意し合える人間関係を構築して見直しをしている。研修計画は、年間及び月間計画を作成し、実施状況も記録し伝達研修も行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は外部評価の意義や目的を職員に説明し、職員も意見を集約して自己評価を行っている。職員は外部評価の意義を理解した上で協力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 「運営推進会議を通じ地域に根ざした運営を進める」と事業計画にも記載し、地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員、町会長、民生委員、老人クラブ会長など地域の代表と利用者及び職員が参加し、グループホームの運営・活動状況、外部評価結果などを報告している。地域の方と直接意見交換も出来て地域との交流がしよくなっている。今後は災害時などにはグループホームを地域の避難場所として提供できるかどうか検討する予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等へ月1回「アムールだより」を送付して行事や利用者の暮らしぶりを紹介すると共に金銭管理についても報告している。重要事項説明書などに苦情相談担当者を明確にすると共に玄関に「意見箱」を設置して意見、苦情などの把握に努めている。家族の面会時には日頃の暮らしぶりを伝えながら家族の要望などを聴取するようにしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入しており、町会行事の案内を受けて、「文化祭、運動会、盆踊り、だんじり祭り」などへ参加している。月1回は地域の保育所を訪問して幼い子供たちとも交流している。散歩に出かけた時は近隣の方へ積極的に挨拶や声掛けを行い気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りを心掛けている。今年から町内会の呼びかけで古紙回収に参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者の信念を込めた「愛のある我が家のような生活を目指します。自由な環境を創造します。安心と信頼のホームを実現します」を理念としている。利用者が地域住民と交流を深めながら、地域の中でその人らしく暮らし続けられるように安心と尊厳のある生活を支援すると運営方針などにも明確にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念を掲示している。パンフレットや「アムールだより」にも掲載して地域や家族、職員へ理念が浸透するように取り組んでいる。さらに年1回全職員に運営方針や事業計画、理念の説明を行い、その周知を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の文化祭、運動会、盆踊り、だんじり祭り等の行事にも参加して交流を深めている。月1回は地域の保育所訪問を行っており幼い子供たちとの交流が利用者の楽しみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に外部評価の意義を説明している。前回の評価結果を全体会議、リーダー会議、フロアミーティング等で検討し可能な限り改善に取り組んでいる。外部評価を受ける事は日頃のサービスを見直して意識改革に繋がると職員は捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に回開催し、議事録を残している。メンバーは地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員、町会長、民生委員、老人クラブ会長、職員代表などで構成され、今年度からは利用者代表も参加している。ホームの活動状況や外部評価結果などの報告、メンバーとの意見交換などから地域との交流もスムーズに行われるようになった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初より忠岡町の介護相談員を受け入れている。地域包括支援センター主催の研修や勉強会に参加し、センターの担当者と定期的に情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回家族などへ「アムールだより」を送付して、利用者の健康状態等を報告すると同時に金銭管理報告書も送付している。面会時にはケアプランについて説明して、同意を得たうえ、署名を貰っている。「家族への伝言ノート」を作り些細な事でも伝えたり、要望を聞く工夫をしている。グループホームの行事にも家族の参加を呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には利用者の状況を報告している。また、家族に対して行事参加を促して意見などを聴く機会を作るよう努力している。苦情相談窓口を明確にして、普段職員が聞き取った苦情、意見、要望等は管理者に報告し職員間で話し合い、改善に向けて努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの職員は原則的には固定しているが、普段から両方のユニットに関わる兼務職員を配置して職員の異動時のフォロー体制を整えている。職員の異動は少なく安定した介護サービスを提供している。新入職員には利用者について十分な説明を行ってから配置している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成して、積極的に外部・内部研修を行っている。新人職員に対する内部研修も行っている。職員の力量に応じて研修が受けられるように研修予定を職員に知らせている。外部研修の受講後は全体会議の中で報告を行い、情報を共有している。また、管理者や計画作成担当者の研修は法人内で行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流や連携の必要性を理解している。忠岡町で唯一のグループホームであり、同業者との交流は出来ていない。地域の通所介護事業所や特別養護老人ホームとの共催行事に参加して、情報交換、交流に努めている。	○	出来るだけ速やかに、近隣の同業者との交流の機会を持ち、相互訪問や勉強会などの実現を期待したい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の利用者と顔なじみの関係が出来るまで、利用者が納得するまで面会、見学など訪問の機会を増やしている。また、入居前には随時相談を受けてケア、食事、趣味など本人や家族からの要望を聞く仕組み作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、調理、生け花、お茶、手芸など利用者が得意の分野で力を発揮できる場面をつくり、その出来栄えを利用者と一緒に喜び合う関係が出来ている。人生の先輩として利用者の意見を尊重して共に支え合う関係作りに努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で気づいた利用者の希望、思いなどはカルテ、申し送りノート、管理日誌などに記録して職員間で情報を共有している。また、職員を担当制にして利用者一人ひとりに寄り添いながら、希望や意向の把握に努めている。家族から聴取した情報なども併せて介護計画に反映して日々のケアに活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントには利用者と家族の要望、思い等を詳細に記録し、それらを反映した介護計画書を作成している。申し送りノート、家族への伝言ノート等を活用してケアの統一と情報の共有化に努めている。管理者、計画作成者、担当者などで随時カンファレンスを開催し家族の参加も呼び掛けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。利用者の状況に変化が見られた場合には随時カンファレンスを開催して計画を見直し、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院介助、行きつけの理美容院への送迎、利用者の配偶者が死亡した時、告別式に付き添いを行うなど、家族や利用者の希望に応じられるように可能な限りの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりがかかりつけ医で引き続き医療が受けられるように利用者の希望に沿った支援をしている。協力医療機関があり緊急時について支援体制がある。専門医との連携も図られている。週1回の訪問歯科診療もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の病状の急変時や緊急時の対応については運営規定や契約書に明記し、入居時に説明し了解を得ている。重度化した場合は利用者、家族の希望を尊重して主治医、家族、職員、看護師などでカンファレンスを行い対応方法、方向性の確認を行っている。また、看取りマニュアルも作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した対応や言葉かけに配慮している。個人情報保護マニュアルを作成し、個人情報の取り扱いは全職員に周知徹底させている。利用者の個人情報は鍵付き書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課表等は作っておらず、利用者一人ひとりが自分のペースで生活出来るように配慮している。食事時間、入浴時間、外出等利用者の希望に合わせたサービスの提供に心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成は系列施設である「アムール高石」の栄養士が行っているが週1から2回位は「共同調理日」として利用者の希望を聞き、独自の食事やおやつを作っている。さらに職員が作成したオリジナルの写真付きメニューや料理の本を置いて利用者の希望を引き出す工夫もしている。利用者が職員と一緒に食器を運んだり、テーブルを拭いたりする姿も見受けられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に沿う入浴支援を行っている。希望すれば毎日でも入浴が出来、時間の制約もない。入浴が嫌いな利用者には無理に勧めないが、3日に1回は入浴できるように努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶会や生け花、手芸、習字など利用者の生活歴や個人の楽しみに沿った支援を心掛けている。また、犬の散歩や餌やり、施設に設置している「地蔵」参りなど張り合いのある日々が過ごせるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の喫茶店、お店への買物、川原への散歩、犬の散歩など利用者一人ひとりの希望に沿った外出の支援をしている。毎日外出する利用者もいるが、外出嫌いの方には犬の散歩などで外気に触れるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関は10時から16時の屋間は施錠していない。エレベーターにも施錠はなく1階と2階の行き来は自由に出来る。職員は常に利用者の動きを視野に入れて、安全に注意を払いながら見守りを徹底している。身体拘束はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防隊、防火整備士と連携を図り年1回消防・避難訓練を行なっている。消火器の取り扱いや避難誘導などに利用者と共に取り組んでいる。緊急時対応マニュアルを作成し非常時の対応体制は出来ている。災害時にはグループホームを避難場所として、また貯水槽の水を災害用の飲用水として地域へ提供することも話し合っている。	○	グループホームの運営規程には「年2回定期的に避難、救出その他必要な訓練を行う」としている。規定に沿った実施の取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立づくり、カロリー計算を行っている。利用者個々の食事摂取量や水分量は日々の熱計表に記録して健康管理に活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の草花や野菜を植えて、利用者や来訪者に親しみある雰囲気作りをしている。居間兼食堂には華美な飾り物はないが、植木鉢や熱帯魚の水槽などを置いて簡素で落ち着いた雰囲気を醸し出している。食事用のテーブル、テレビ、大きなソファなどが使い易く配置されている。利用者は日中の殆どの時間を居間のソファで過ごしている。可愛い犬も飼われていて利用者には人気者となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には全室に窓があり明るく清潔であり室内は整理整頓されている。利用者は机、筆筒、テーブル、衣装ケース、写真、時計など馴染みの品物に囲まれて落ち着いて生活している。利用者が出来るだけ自宅から馴染みの品を持参されるように支援している。今までの生活習慣から畳みを敷いている居室設定もしている。		

※  は、重点項目。